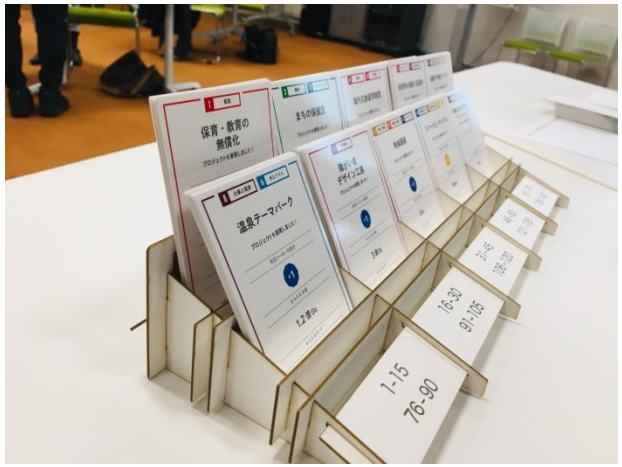
参照SDGs de 地方創生HPより

カードゲーム「SDGs de 地方創生」



カード開発元
NPO法人イシュープラスデザイン
株式会社プロジェクトデザイン

「SDGs de 地方創生」とは、SDGsの考え方を地域の活性化に活かし、地方創生を実現する方法について参加者全員で対話し、考えるためのゲームです。

政府の持続可能な開発目標（SDGs）推進本部が2018年末に発表した、SDGsアクションプラン2019の中でも、SDGsを原動力とした地方創生、強靭かつ環境にやさしい魅力的なまちづくりが明確に謳われました。2018年に選ばれ、発表された29のSDGs未来都市はその象徴的な動きです。

しかし、SDGsの考え方を地方創生に活かしていくってどういう意味だろう？世界全体のグローバルな問題と、国内の一地域の活性化の問題がどのように関わっているのだろう？と疑問に感じられる方も多いのではないかと思います。

私たちは１年以上にわたる「SDGs de 地方創生」の開発とテストプレイを通じ、日本の各地域が抱える課題も、世界が抱える課題と根本原因や構造が相似形であることに気づきました。SDGsの考え方を理解することは地方創生にも役立てることができます。

そのことを直観的、体感的に感じて頂き、そして具体的なアクションへとつなげていただく、そのことを促進するためのゲームです。

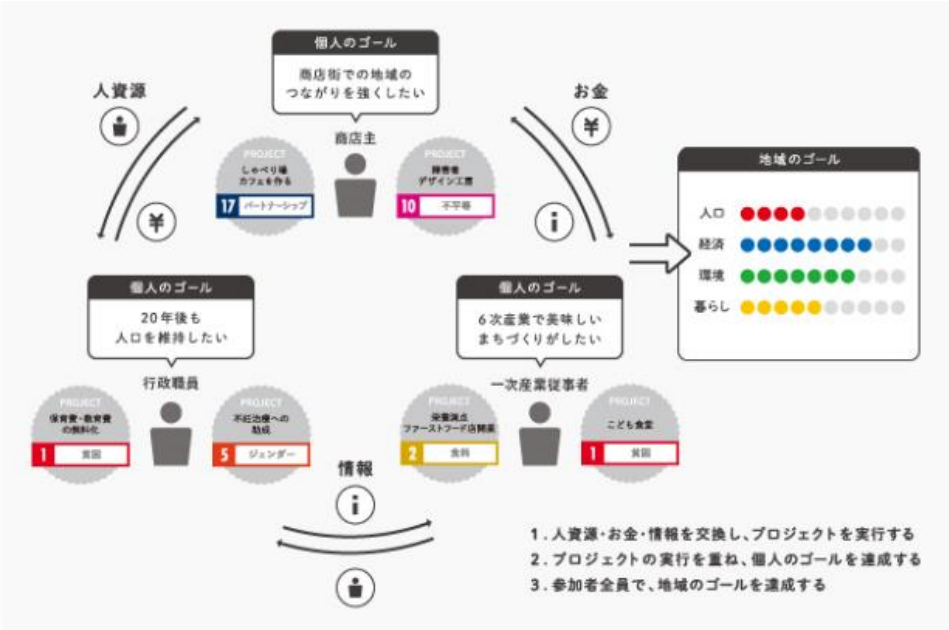
POINT①　行政担当者、または住民として

SDGs de 地方創生ゲームの参加者は最小で６、最大で16の各地域で活躍するプレイヤーにわかれて頂いて、それぞれの役割を演じていただきます。行政担当として４つの役割があり、まちで活動する市民として12の役割があります。

行政担当者には毎ターン予算が配られ、まちを良くすることをゴールとして提示されます。まちで活動する市民には、一次産業従事者や、まち工場の経営者、一市民など様々な役が与えられます。使える予算は限られていますが、代わりに普段の活動を通じて得られる人脈があります。

どのように活動し、どのようにまちに働きかけていくか。それはゲームに参加する参加者ひとりひとりに委ねられています。

POINT②　まちの現状をあらわす４つの指標



SDGs de 地方創生ゲームではまちの状態は「人口」「経済」「環境」「暮らし」という４つの指標で表されます。何も具体的な対策をしないでいると、人口は徐々に減少をはじめます。

経済はまちの財政に影響を与え、まちに緑が少なかったり、暮らしやすいまちでなければ、様々な施策をしても十分な効果を発揮しません。

20年後も豊かに過ごせるまちとなるのか、それとも残念ながら消滅可能性が高い都市になるのか。それはゲームに参加したプレイヤーひとりひとりの行動によって千変万化いたします。

POINT③　まちを彩る具体的なアクション

しかし、具体的にそれらの施策を実践したときにどのような効果が生じるのか、プレイヤーには明かされていません。まちに良い影響をもたらすのか、期待はずれにおわるのか、はたまた、まちにネガティブな影響をもたらしてしまうのか。。。自分の行動一つ一つがまちに与える影響を考えながらプレイして頂く必要があります。

また、まちの状況によっては、かつてはできなかったアクションができるようになった、そんなことが起こり得るように作成されています。

あなたの参加するまちは、前進をしているでしょうか？それとも衰退を続けているまちでしょうか？残された時間は限られています。

SDGs de 地方創生公認ファシリテーター

NPO法人長野県NPOセンター
事務局次長

小林　達矢

1992年、長野県長野市出身
日本大学法学部卒業後、
2015年公益財団法人松下政経塾入塾
対話を通じた地域課題解決を研究
2018年4月より現職